

<div>都城市立図書館 (本館)</div> <div>宮崎県都城市中町 16 街区 15 号</div> <div>JR 西都城駅から徒歩約 12 分</div> <div>開館年月 平成 28 年 11 月 延床面積 約 8,046 m²</div> <div>分館等 1 箇所 (高城図書館)</div> <div>移動図書館くれよん号</div> <div>自治体の基礎情報</div> <div>・面積 653.36 km²</div> <div>・人口 約 15.7 万人 (令和 5 年 4 月 1 日現在)</div>	
--	--

＜地域自治の拠点―「見つける」場「表現する」場「地域をつなぐ」場「市民とつくる」場の創出―＞

運営				
予算		職員数	開館日数	開館時間
約 2.73 億円 うち資料費約 0.31 億円 ※市立図書館全体		約 56 人 ※指定管理者職員	345 日	9 : 00～21 : 00
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
602,919 点 うち視聴覚資料 2,058 点 (団体貸出のみ) 新聞 18 種 雑誌 232 種		公表されていない		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
745,483 人 1 日当たり 2,160 人	471,808 点	91,529 人 ※市立図書館全体	4,316 件	子ども向け 47 回 大人向け 153 回
特徴的な取り組み				
<p>・運営方針 : 「ひとりひとりが『だいじなもの』をみつけていくために」を管理運営理念とし、「見つける」場「表現する」場「地域をつなぐ」場「市民とつくる」場の創出により、多くの人たちの居場所となり、自発的な学びを続けられる図書館であるよう、市民、地域と共に活動をする</p> <p>・まちなか記憶展と市民とともに行う地図の復元 : まちなか記憶展を定期的で開催。復元中の古地図や当時の写真、模型が展示され、来場者の声をもとに市街地の地図の復元を行う</p> <p>・多彩なイベント : こどものにわ (こどもの感性を育むスペース)、ギャラリー (展示・講演会スペース)、スタジオ (制作機材をそろえた表現の場)、ファッションラボ (シルクスクリーン設備あり) などがある。展示イベントはギャラリー、ショーケースなどの展示施設で年 93 回。約 800 ある木箱架では大小さまざまなテーマ展示を随時更新。地域に取材に出かけ、ギャラリーで展示、スタジオで地域資料を制作するなど人材や設備を活かしたイベントやワークショップを開催。カフェでは地元の花屋、珈琲焙煎店、お茶屋、本屋などと連携し、地域の良い食材や生産物の紹介・提供を行う</p> <p>・独自の運営体制 : 運営は「ライブラリー」「スタジオ」「総務」と大きく 3 つのグループに分かれ、「ライブラリー」の中は「資料」「相談」「場づくり」「移動図書館」「高城 (分館)」のチームからなる。「スタジオ」は編集者、ライター、デザイナーなどの専属スタッフを配置。「場づくり」は児童やティーンズ、シニア、障がい者に関連したものも担当し、サービスの対象者が自ら面白そうなものを見つける経験をしていく場、自由に楽しめる場をつくることを行う。運営方針を踏まえた独自のチーム体制で活発に議論を重ね、各自が主体的に動けるよう工夫する</p> <p>・インデックス : 独自のキーワードと QR コードを付与されたスタンプが並ぶ「インデックス」。タブレット端末「だいじなもののメモリー」やスマートフォンで読むと関連本や書架を表示。気になる本や読んだ本をサーバのマイページに記録できる</p>			 	

安城市図書館情報館

愛知県安城市御幸本町 12 番 1 号

JR 安城駅南口から徒歩約 5 分

開館年月 平成 29 年 6 月 延床面積 約 6,808 ㎡

分館等 公民館図書室等 12 箇所

自治体の基礎情報

・面積 86.05 ㎢

・人口 約 18.9 万人（令和 5 年 4 月 1 日現在）



< ICT 環境を整えた先進事例 >

運営				
予算	職員数	開館日数	開館時間	
約 3.13 億円 うち資料費 約 0.83 億円 ※市立図書館全体	約 77 人 うち、司書 42 人 (正規 13 人、再任用 1 人、 会計年度任用職員 63 人)	293 日	月曜、水～金曜 9:00～20:00 土日祝日 9:00～18:00	
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
465,339 点 うち視聴覚資料 16,206 点 新聞 39 種 雑誌 368 種 電子書籍 約 3,151 点 電子雑誌 100 種以上(読み放題)		16 種		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
498,869 人 1 日当たり 1,703 人	1,184,113 点	127,321 人 ※市立図書館全体	10,162 件	子ども向け 324 回 大人向け 59 回
特徴的な取り組み				
ICT の活用、電子資料の拡充を積極的に進める <ul style="list-style-type: none">・自動貸出・返却機、予約本自動受取機（24 時間受取）、電子新聞閲覧端末、読書通帳機等を整備・有料設備：編集・録音スタジオに 3D プリンタ（インクジェット、写真用、大判、3 D）、映像編集設備など・IC リーダが設置された書架により返却されたばかりの本と新着本の配架場所が把握できる・施設・座席予約システム(グループ学習室、ディスカッションルーム、編集・録音スタジオ、個人学習席)・機器の館内貸出（台数/年間貸出回数）：ノート PC(22 台/1902 回)、Android タブレット(15 台/72 回)、iPad（15 台/462 回）CD・DVD プレイヤー（10 台/172 回）・電子資料：電子新聞、電子図書、デジタル絵本・電子紙芝居（カラクリ BOOKS）、オンラインデータベース、スマートフォンアプリ（安城 AR ナビ）、安城デジタルアーカイブを提供				
施設の複合性を活かし、市の各課と連携したサービスを提供 <ul style="list-style-type: none">・健康支援：気軽に参加できる健康測定会や運動教室など、健康に役立つイベントや講座を開催（健康推進課と連携）・子育て支援：子育て支援コーナー隣の「つどいのへや」に、「ほっとスペース」を設置（子育て支援課が運営）。NPO 法人にサービスを委託し、地域子育て支援拠点として子育てアドバイザーの相談対応、子育て支援に関する講習を実施・ビジネス支援：「ビジネス支援センター」を設置し、専門職員が常駐（商工課が運営）。商工会議所のサテライトとして個人事業者や会社の経営相談等による。約 1.8 万冊のビジネス関連書籍や 16 種のオンラインデータベースを提供・図書館フロアでの会話と飲食は原則可能。飲酒ができるスペースもある				





塩尻市立図書館（本館）

長野県塩尻市大門一番町 12 番 2 号
JR 塩尻駅東口（正面口）から徒歩約 8 分

開館年月 平成 22 年 7 月 延床面積 3,286 m²
分館等 8 箇所

自治体の基礎情報

・面積 290.18 km²
・人口 約 6.6 万人（令和 5 年 4 月 1 日現在）



<市民交流センターの核として、市民活動と生涯読書・出版文化を支える事業を継続>

運営				
予算	職員数	開館日数	開館時間	
約 2.23 億円 うち、資料費 約 0.36 億円 ※市立図書館全体	約 35 人 うち、司書 28 人 (正規 6 人、会見年度任用職員 29 人)	278 日	月～火、木～金曜 10：00～20：00 土曜：9：30～20：00 日祝日：9：30～18：00 ※児童コーナーは 9：00～	
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
413,546 点 ほか視聴覚資料（全館共通）13,127 点 新聞 25 種 雑誌 396 種		9 種		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
316,909 人 1 日当たり 1,140 人	418,232 点	34,331 人 ※市立図書館全体	10,844 件 ※市立図書館全体	233 回
特徴的な取り組み				
<p>・隣接自治体と重複しない資料の収集：一般書の収集方針として一つのタイトルを複数冊所蔵することを控え、多くの要求に対応できるよう幅広い分野の資料や出版点数の少ない専門図書等をそろえ、近隣の図書館、市内書店等と違う特色を出せるよう意識。宿場、街道、考古学、ぶどう、ワイン、漆器、筑摩書房出版物など地域の特色に基づく資料を重点収集</p> <p>・信州しおじり 本の寺子屋：図書館が中心となり生涯読書を推進し、出版文化の発展に寄与することをコンセプトに、本の可能性を考える機会を提供。「信州しおじり 子ども本の寺子屋」では、子どもたちに図書館や本の魅力を発信し、本の可能性を考える事業を実施。本の寺子屋で「地域文化サロン」を開始し、令和元年度には県立長野図書館、大門商店の東座と連携し地域振興を視野に入れた企画を行う。大和市文化創造拠点シリウス（神奈川県大和市）、みんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜市）との間で「図書館の連携・協力に関する同盟」を締結。情報交換を行い企画立案に活かす</p> <p>図書館、子育て支援センター、市民交流支援センター、テナントとして商工会議所や民間企業が入る複合施設。個々の機能が有機的に連携し、相乗効果を生み出す融合事業を展開</p> <p>・建物の壁面等を有料で貸し出し、展示等の市民活動、 営利目的を含む企業活動に活用</p> <p>・市民交流センターICTルームで3Dプリンタを提供。活用する「立体地形図の会」と上高地インフォメーションセンターで「新山岳展」を実施し、「地方創生レファレンス大賞奨励賞」を受賞</p> <p>・子育て支援： 図書館の児童向け貸出カウンター横に子育て支援センターのカウンターがあり、共通カードで利用可能。おはなし会やイベント等のついでに気軽に育児相談ができる</p> <p>・ビジネス支援： 経済産業省「よろず支援拠点」が協力し、敷居を低くした市民のための相談会開催、情報コーナーを設置</p>				





立川市中央図書館

東京都立川市曙町 2 丁目 3 6 番 2 号

JR 立川駅北口から徒歩約 10 分

開館年月平成 7 年 1 月 延床面積 4,951 m²

分館等 8 箇所

自治体の基礎情報

・面積 24.36 km²

・人口 約 18.6 万人（令和 5 年 4 月 1 日現在）



<市立小中学校の全児童・生徒へ電子書籍貸出サービスを提供>

運営				
予算	職員数	開館日数	開館時間	
約 6.39 億円 うち資料費 約 0.74 億円 ※市立図書館全体	約 46 人 うち、司書 31 人	292 日	火～金曜 10：00～20：00 ※毎月第 3 木曜は休館 土日祝日 10：00～17：00 ※児童書フロアは平日も 10：00～17：00	
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
520,724 点 うち視聴覚資料 21,939 点 新聞 51 種 雑誌 330 種 電子書籍 約 5,948 点		9 種		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
225,029 人 1 日当たり 771 人	500,504 点	57,921 人 ※市立図書館全体	1,170 件	子ども向け 38 回 大人向け 14 回
特徴的な取り組み				
<p>・たちかわ電子図書館：図書館利用カードの登録者であれば、申し込み不要でインターネットから利用できる電子書籍貸出サービス。令和 3 年度の貸出数は 90,889 点（6～12 歳 52,870 点、13～15 歳 9,281 点）、貸出実利用者数は 8,738 人（6～12 歳 4,730 人、13～15 歳 1,312 人）、閲覧数は 173,860 点（6～12 歳 81,367 点、13～15 歳 15,118 点）、令和 5 年 1 月 15 日時点のタイトル数は 7,125 点。</p> <p>・令和 3 年 1 月 6 日より「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用してサービスを開始。また、民間連携や個人指定寄附金により予算を確保しコンテンツの充実に努めている。</p> <p>・学校連携に注力し、市立小・中学校と協力し児童・生徒の 1 人 1 台タブレット P C 活用した利用促進を行っている。各学校を通じて立川市立小中学校に在籍する全児童・生徒約 12,400 人に「学校用たちかわ電子図書館利用カード」を配布。コンテンツもこども向け・YA 向けの読み物、学習に役立つ本などを揃えている（4,346 点、全体の約 6 割を占める）。令和 4 年 6 月からは「朝読」や授業で活用できるよう読み放題パック（閲覧型で同時アクセス無制限、1 年契約）を導入。</p> <p>・カード配布前（令和 3 年 1/6～9/12）とカード配布後（令和 3 年 9/13～翌 5/19）の比較では、小学生の貸出数は 29.4 倍、閲覧数(読み放題パック) は 30.3 倍、実利用者数 27.3 倍に、中学生の貸出数は 7.0 倍、閲覧数(読み放題パック) は 6.93 倍、実利用者数 11.4 倍に増加。</p> <p>・参考「令和 5 年第 2 回立川市教育委員会定例会 資料」</p>				

ヘルシンキ市立中央図書館 Oodi（オーディ）

フィンランド ヘルシンキ市

開館年月 平成 30 年 12 月 延床面積 10,000 m²

分館等 36 箇所

自治体の基礎情報

・面積 213.8 km²

・人口 約 65 万人



<全ての人の開かれた機能的な出会いの場、「新しい時代の図書館」>

運営				
予算	職員数	開館日数	開館時間	
約 44.32 億円 うち資料費 約 4.1 億円 ※市立図書館全体	458 人 ※市立図書館全体 うち図書館専門職員 420 人 その他 33 人)	355 日	月～金曜 8：00～21：00 土・日曜 10：00～20：00	
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
1,890,657 点 電子資料 20,120 点 ※雑誌は「オンラインデータベース」に含む		13 種（※統合サービス提供者数を含む、 「オンラインデータベース」としたものは左記「電子資料」には含めていない		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
6,475,619 人 1 日当たり 17,741 人	8,982,371 点 ※市立図書館全体	239,491 人 ※市立図書館全体	287,546 件	子ども向け 3,588 回 大人向け 2,878 回
特徴的な取り組み				
<div><div><div>・市民との長期的かつ積極的な議論：図書館を訪れない多くの人を誘うため、10 年ほど準備期間をかけ市民との議論を実施</div><div>・市立図書館として 200 万冊を超えるヘルシンキ大都市圏の蔵書を共有</div><div>・館内 98%は開架スペース：Oodi は蔵書冊数を約 10 万冊に抑え、快適な資料空間を提供し、ヘルシンキ市立図書館最大の楽譜のコレクション、広範なコミックのコレクション、様々なゲーム機やボードゲーム、映画、数千の外国の新聞にアクセスできる新聞タブレット等、多様な資料を揃える</div><div>・あらゆる年齢向けのワークショップや講演会、対象別のガイドツアー等の多様なイベントが、屋内・屋外で行われている</div><div>・多感覚スペースルーム「キューブ」：イベントやゲーム、ブレインストーミングの場となっており、人々が集まり、問題解決のために議論を行う「フューチャーセンター」としても使用。プロジェクター、大型ディスプレイ、タブレット、オーディオ、バーチャルリアリティ装置等を備え、周囲の壁がデジタルスマートガラスで囲われる</div><div>・メイカースペース等学習エリア：3D プリンタ、レーザーカッター、ヒートプレス機、大判プリンタ等のほか、台所やミシン、ゲーム機、バッジマシンなどがある。スタジオには、ピアノやギターアンプ、DJ 機器等があり、様々な世代の人々が多様な学習・作業や余暇活用ができる</div><div>・AI・ロボットを活用した資料管理：AI を活用した資料搬送や配架のロボットや、資料の場所まで案内するロボットがいる。資料案内ロボットは、司書、利用者、地域の IT 企業が協働で開発。資料の所在管理をしている図書館システムがこれらのロボットと連動している。資料所在の把握は市立図書館全体にわたり、全ての蔵書は AI が利用状況を判断し、最適な市内図書館に配置される</div></div><div></div></div>				

オーフス市立図書館

Dokk1（ドック 1）

デンマーク オーフス市

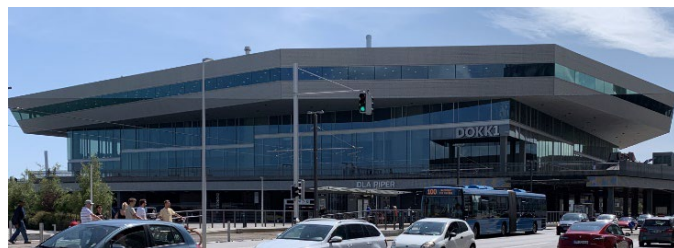
開館年月 平成 27 年 6 月 延床面積約 17,500 m²

分館等 18 館

自治体の基礎情報

・面積 468 km²

・人口 約 36 万人



＜市民のニーズに柔軟に対応し、サービスを協創していくコミュニティ・センターとしての開かれた図書館＞

運営				
予算	職員数	開館日数	開館時間	
回答なし	238 人 ※市立図書館全体 うち図書館専門職員 39 人 その他 199 人	365 日	月～金曜 8:00～21:00 土・日曜 10:00～16:00 ※月～金の 8:00～10:00 と 19:00 以降は オープンライブラリー	
コレクション				
蔵書数		オンラインデータベース		
598,000 点 電子資料 125,000 点 ※雑誌は「オンラインデータベース」に含む		回答なし		
サービス				
来館者数	個人貸出	登録者数	レファレンス件数	イベント
約 122 万人 1 日当たり 3,700 人	1,786,392 点 ※市立図書館全体	150,192 人 ※市立図書館全体	公表されていない	約 2,000 回 ※子ども向け・大人向けを分類 してカウントしていない
特徴的な取り組み				
<p>・長期的な議論に基づく設計：Dokk1 をつくる議論は 13 年間の長丁場だったが、市民、政治家、職員、専門家等の人々の対話によってまとめられ、建築事務所はその議論を受け入れて設計した</p> <p>・イベントを重視するサービス：イベントスペースが建物の中心部分にあり、イベントが図書館にとって主要なサービスだということを意識させる。イベントは、ホールだけではなく図書館の開放空間の一角でも催され、月平均 80～100 イベントが展開されている。そのうち、60%は市民により構成される。NPO など外部組織と連携し「宿題支援」「健康相談」「ビジネスサポート」などのサービスを提供</p> <p>・オープンライブラリー：職員のいない時間帯にも、個人 ID カードで入館でき、資料はもちろんのこと、館内設備や種々の機器などをセルフサービスで利用できる。BDS（Book Detection System）や監視カメラの設置、貸出・返却・予約受取の自動化などの条件を整え実施</p> <p>・AI・ロボットを活用した資料管理：返却や他館への配送資料の仕分けに「ロボット仕分けシステム」を採用。分館を含め、資料をどのように配置するか管理。現在は半自動だが、利用者ニーズに合わせ配置できる AI 活用を視野に入れる</p> <p>・スマートフォンアプリ：スマートフォンで資料の予約や貸出履歴の確認、延滞料や手数料の支払いができる</p> <p>・電子雑誌・電子新聞等：PressReader では、100 以上の国から 60 の言語で 7,000 の新聞と雑誌（2022 年 1 月現在）へのオンラインアクセスを提供。Faktalink は、あらゆる種類のトピックに関する 650 以上の記事を掲載した電子ジャーナル。自宅利用可</p>				

